

まえがき

赤道直下の小さな島国シンガポールは、十九世紀はじめから実質的な国づくりが始まった若い国であるが、現在、成長著しい東南アジアの国々のなかでも最も活力にあふれた国のひとつである。狭い国土に人口が密集しているこの都市国家には、天然資源もなく、海上交通の要衝という地理的な優位性があるだけだった。一九五九年の自治獲得当時、国民は劣悪な生活環境のなかにいた。しかし、その後の努力により、シンガポールは国土の徹底的な有効利用を果たし、海外からの盛んな投資も受け入れて、繁栄の道を歩んだ。

今日、シンガポールは、戦略的な都市計画に基づいた住宅、社会資本の整備の面で国際的に高く評価されている。さらに、都市内の緑化のすばらしさは「ガーデンシティ」として有名である。

本書は、一九九一年から九四年までの三年間、建設省から在シンガポール日本国大使館へ書記官として出向していた著者が、先進的かつ特徴あふれるシンガポールの都市整備の現状と背景を概説しようとするものである。近年、日本から地方自治体の方々をはじめ多くの視察団がシンガポールを訪れるなど、シンガポールの街づくりに関心が高まっているが、体系的な日本語の資料は見当たらなかったところ、この度アジア経済研究所との御縁に恵まれ本書の刊行の運びとなった。シンガポールでは同研究所派遣の研究員の方とご一緒に仕事をする機会があり、日本に戻ってもアジア研究の代表的機関である同研究所に貴重な機会を頂き、本当にありがたいことと感じている。本書がシンガポールを理解しようとする方々に幅広くお役に立てば誠に幸いである。

最後に、本資料の収集にご協力いただいたシンガポールの皆様に、ここに厚く御礼申し上げます。

一九九五年七月

著者

(追記) 本書の印刷着手後にシンガポール政府の社会資本整備担当部局の再編が行われた。

出版元のご理解を得てその内容を本書末尾に記したのでご参照願いたい。